

テーマ

ブータン山村にて、地域住民の生活基盤づくりに関わる

適用分野

地域研究、発展・開発思想



研究名称

コミュニティ経済（community economy）振興の可能性と課題

氏名所属

真崎 克彦 教授
マネジメント創造学部

内容

● **特徴** ブータン王国におけるコミュニティ経済（community economy）振興の可能性と課題についての研究です。国際協力機構（JICA）の協力のもと、同国中部のシンカル村（標高3,500メートル）で、乳業協同組合の立ち上げの支援に、学生とともに取り組みました。その成果をもとに、村落でいかに人びとの生活基盤づくりを進められるのかを考察しています。ここでの「生活基盤」とは現金収入だけでなく、人間生活に必要な幅広い条件（社会の調和や環境の保全など）を指します。



シンカル村 地元住民・組合スタッフと交流

● **研究内容** コミュニティ経済論では、経済を「人の生存・生活を支える活動」と定義した上で、地域コミュニティでの住民どうしや自然環境との関わりを基盤とした経済振興が目指されます。（経済発展

には大中市場の振興も欠かせません。）
JICA事業では、シンカル村の全39世帯が加入した乳業協同組合が立ち上げられ、組合員の所得も平均1.5倍上がりました。成功要因として、組合員が個々の所得向上だけでなく、村の祭事のための資金捻出をも望んでいた点が挙げられます（下記URL参照）。組合員にとって祭事は、信心（＝「すべての生きとし生けるものに感謝する」）に根差した地域の暮らしを継承する大切なイベントです。その思いが、乳業協同組合の成功の原動力でした。

グローバル市場経済を軸とした現行体制では、成長の鈍化や債務拡大、格差拡大や環境問題が生じており、この動静は今後も続きそうです。（例：OECD報告書『Policy challenges for the next 50 years』参照）。そのためか日本でも近年、地元の資源を活かした経済振興を、地域主体で進める事例が増えています（例：6次産業化、自然エネルギー発電、有機農業、都市農村交流）。会社員の兼業・副業が広まる中、本業外でコミュニティ経済に関わる人は、これから増えていくのではないのでしょうか。

<https://www.konan-u.ac.jp/front/research/research/>

キーワード

コミュニティ経済、生活基盤、市場経済、格差拡大、ブータン王国

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究